



Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 老松克博教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2024, 50, p. 295-299
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/94738
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【定年退職教授の履歴および主要業績】

おい まつ かつ ひろ
老 松 克 博 教授

おい まつ かつ ひろ
老 松 克 博 教授

(1959 年 2 月 17 日生)

- 1984 年 3 月 鳥取大学医学部医学科卒業
- 1984 年 4 月 鳥取大学医学部研究生 (～ 1989 年 3 月)
- 1986 年 4 月 京都大学教育学部教育心理学科研修員 (～ 1988 年 3 月)
- 1992 年 10 月 C. G. Jung-Institut Zurich 留学 (～ 1995 年 7 月)

- 1984 年 6 月 鳥取大学医学部附属病院研修医
- 1985 年 4 月 島根県立湖陵病院医師
- 1986 年 4 月 医療法人栄仁会宇治黄檗病院医師
- 1988 年 4 月 労働福祉事業団山陰労災病院医師
- 1989 年 4 月 鳥取大学医学部附属病院医員
- 1990 年 4 月 鳥取大学医学部附属病院医員
- 1991 年 4 月 鳥取大学医学部助手
- 1991 年 10 月 鳥取大学医学部附属病院助手 (～ 1994 年 9 月)
- 1995 年 10 月 財団法人仁明会仁明会病院医師
- 1997 年 4 月 大阪大学人間科学部助教授
- 2000 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科助教授 (大学院重点化に伴い)
- 2003 年 10 月 大阪大学大学院人間科学研究科教授
- 2004 年 4 月 国立大学法人大阪大学大学院人間科学研究科教授 (独立行政法人化に伴い)
- 2004 年 4 月 大阪大学教育実践センター教授 (兼任) (～ 2006 年 3 月)
- 2024 年 4 月 大阪大学名誉教授 (予定)

老松克博教授は、1984 年 3 月に鳥取大学医学部医学科を卒業し医師免許を取得した。各地の総合病院や精神科病院で常勤・非常勤医師として臨床経験を積み、1991 年 4 月からは同大学医学部や同大学附属病院の助手を務めた。その傍ら、同大学医学部研究生、京都大学教育学部研修員として研鑽に励み、1992 年 9 月に鳥取大学から博士 (医学) の学位を授与され、同年 10 月にスイスの C. G. Jung-Institut Zurich に留学。1995 年 7 月に修了し、ユング派分析家資格を取得した。1997 年 4 月に大阪大学人間科学部に助教授として着任、2003 年に大阪大学大学院人間科学研究科教授となった。本学の臨床心理学分野の専任教員として四半世紀以上にわたって教育・臨床・研究に携わり、2024 年 3 月をもって定年退職する。なお、1991 年に臨床心理士、2019 年に公認心理師、2007 年に精神科専門医の資格を取得している。

教育・臨床・研究に関する功績

設置後まもない臨床心理学分野(当時は教育臨床心理学分野)に着任して以来、黎明期にあった心の臨床の営みを確固たるものにすべく、心理療法家を育てるシステムの確立を図り、臨床心理士養成大学院の第1種指定校として多数の優秀な臨床心理士を輩出した。内部実習施設である研究科附属心理教育相談室の揺籃の時代から2012年度までは副室長を、2013年度からは室長を務めて、実習環境を充実させるとともに、一般市民を対象とする心理相談活動に積極的に取り組んで、それまで充分ではなかった心理臨床の社会的認知度を飛躍的に高めることに寄与した。また、ここ5年ほどは、臨床心理士養成のみならず、全国的にも珍しい全学に開かれた公認心理師養成プログラムの構築にも関わり、その運営に貢献している。

研究の柱となっているのは深層心理学で、Carl G. Jungによる分析心理学(ユング心理学)の普及と発展に対する尽力には特筆すべきものがある。さまざまな心の症状や問題が解消されて変容や成長が生じる際には、広い意味での内なる宗教性の働きが重要になるが、その発現のプロセスをめぐる一連の研究は独創性に富んでいる。その説得力を裏打ちしているのは豊富な臨床経験である。そこには、器質性のものから心因性のものまで多岐にわたる精神疾患の診療に医師として40年以上携わってきた経験だけでなく、単純に病気として扱えない問題を抱えている人、みずからの成長を求める健常者やときには求道者とも深く向き合うことを旨とするユング派分析家としての経験が含まれる。野心的な研究の多くは書籍として刊行された。ほとんどが単著で、きわめて専門的な内容でありながら、一般の人を含む広い読者層に受け入れられている。なかんずく、ユング派の分析技法の一つ **active imagination** をわが国にはじめて本格的に導入し独自の改良を加えた実践は、心身変容技法研究者、アスリート、宗教家、文学者などからも注目される貴重な功績と言える。後掲の「主要業績」から例をあげるとすれば、『アクティブ・イマジネーションの理論と実践』3部作(2004)や大阪大学出版会刊行の『心と身体のあいだ』(2019)などがその代表格である。

学内および学外における功績

日本ユング派分析家協会設立メンバーならびに理事、日本ユング心理学研究所設立メンバーならびにシニア・アナリストとして、ユング派の実践的側面の継承と治療技法の指導を行ない、後進の分析家の育成に努めている。また、日本ユング心理学会設立発起人ならびに理事として、ユング心理学の学術的側面における発展に貢献している。ほかにも、日本ソマティック心理学協会運営委員(役員理事)などを務める。心理臨床学の草創期に、大阪府臨床心理士会理事として関西地域における斯界の基盤作りに尽力したことも特筆すべき功績の一つである。

学内においては、2016～2017年度の入試委員会副委員長を務め、諸般の事情から設置された緊急入試問題対策本部メンバーとして困難な事案の対処にあたったほか、情報公開・個人情報保護委員会委員として機密性の高い情報の公開可否に関する高度な判断に携わった。また、医学系研究科附属病院に全科横断的な臨床心理学的ケアを目的として設けられた「心のケアチーム」の活動に参加し、その実践を支える役割を担ってきた。

以上のように、老松克博教授は、大阪大学人間科学部および大学院人間科学研究科における教育・臨床・研究を通してその充実と発展に寄与するとともに、心理学・医学の協働的臨床実践やさまざまな社会的活動を通してわが国の学術振興に大きく貢献している。

主 要 業 績

著書

1. 老松克博 (1997) 『漂泊する自我』 新曜社
2. 老松克博 (1999) 『スサノオ神話でよむ日本人』、講談社
3. 老松克博 (2000) 『アクティヴ・イマジネーション』、誠信書房
4. 老松克博 (2001) 『サトル・ボディのユング心理学』、トランスビュー
5. 老松克博 (2004) 『無意識と出会う』 (アクティヴ・イマジネーションの理論と実践①)、トランスビュー
6. 老松克博 (2004) 『成長する心』 (アクティヴ・イマジネーションの理論と実践②)、トランスビュー
7. 老松克博 (2004) 『元型的イメージとの対話』 (アクティヴ・イマジネーションの理論と実践③)、トランスビュー
8. 老松克博 (2014) 『人格系と発達系』、講談社
9. 老松克博 (2016) 『身体系個性化の深層心理学』、遠見書房
10. 老松克博 (2016) 『共時性の深層』、コスモス・ライブラリー
11. 老松克博 (2017) 『武術家、身・心・霊を行ず』、遠見書房
12. 老松克博 (2019) 『心と身体のあいだ』、大阪大学出版会
13. 老松克博 (2020) 『夢の臨床的ポテンシャル』、誠信書房
14. 老松克博 (2021) 『空気を読む人 読まない人』、講談社
15. 老松克博 (2023) 『法力とは何か』、法蔵館

他 58 冊

訳書

1. 老松克博監訳、工藤昌孝訳 (2009), ユング『哲学の木』, 創元社 (Jung, C. G., 1945/1954, *Der philosophische Baum, Von den Wurzeln des Bewusstseins: Studien über den Archetypus (Psychologische Abhandlungen IX)*, Rascher)
2. 氏原寛・老松克博監訳、角野善宏・川戸圓・宮野素子・山下雅也訳 (2011) ユング『ヴィジョン・セミナー』, 創元社 (Douglas, C., ed., Jung, C. G., 1997, *Visions: Notes of the seminar given in 1930-1934 by C. G. Jung*, Princeton University Press)

他 18 冊

論文

1. 老松克博（1990）絵画療法における変容の指標としての「文様化現象」について、心理臨床学研究 8(2), 7-19.
2. 老松克博・浜崎豊・田中雄三（1991）修羅の旅路——賢治にみる怒りと宗教性、日本病跡学雑誌 41, 45-54.
3. 老松克博（1999）自我の病理と臨床神話学、臨床精神病理 20(2), 101-108.
4. 老松克博（2018）発達系への血の通った理解、臨床心理学 18(2), 169-173.
5. 老松克博（2022）統合失調症と異界、精神療法 48(1), 11-14.

他 64 編